

(様式3)

校種	①・中 どちらかに○	学校番号	49	学校名	宇都宮市立雀宮南小学校
----	---------------	------	----	-----	-------------

令和6年度 児童生徒指導に関する取組

1 児童生徒指導上の主な実態

(1) 問題行動等調査から

- 令和5年度は、暴力行為が0件、いじめが0件、不登校が17名（1年生1名・2年生2名・3年生3名・4年生4名・5年生1名・6年生6名）の調査結果であった。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- 「勉強が好きですか」の質問に対しての肯定割合が、市の平均を下回る学年が多い。
- 「うつのみや学校マネジメントシステムアンケート」のあいさつに関する質問では、教職員・保護者ともに肯定割合が上がった。
- 「じぶんにはよいところがあるか」の質問に対しての肯定割合が、県の平均を下回る学年が多く、全体的に自己肯定感がやや低いことが分かる。
- 「粘り強く取り組んでいるか」の質問に対しての肯定割合が児童・教職員ともに市の平均を下回っており、目標に向かって継続して頑張ろうという姿勢があまり身に付いていない。
- 学年が上がるにつれ、スマートフォン等の所持率が上がり、ほとんどの学年で市の平均よりも高い。
「けいたい電話やスマートフォンを使うときのルールを、家の人と決めている」児童の割合が、高学年で市の平均より低い。フィルタリングやキッズケータイに関する質問も市の平均を下回っている。
- テレビ・ビデオ・ICT機器による動画の視聴時間、及びゲームを長時間行っている児童の割合が、市の平均よりも高くなっている。

(3) 学校生活の状況から

- 学校生活のルールやマナーについては多くの児童がおおむね理解しているが、ルールや時間を守って行動したり、場の状況を考えて行動したりしようとする態度が不十分な児童が見受けられる。また、周りの雰囲気にならされて自律ができない児童もいる。
- 名札の着用や時間を守って行動するなど、学校生活における基本的な規律の遵守が出来ていない児童が多数見受けられるため、学級・学校全体を通して指導を行っていく。
- 地域学校園のあいさつ運動やあいさつに関する指導を通して、地域の方や来客にあいさつをする意識が高まっており、あいさつが習慣化されてきた。一方、地域の方や来客へのあいさつが出来ていない場面も見られるため、継続して指導していきたい。
- なかよし活動（縦割り班）を通して、多くの児童が異学年集団の中で生活する楽しさやよさを感じながら過ごしている。異学年交流の時間を軸にし、互いを認め合うような活動の場を設けて自己肯定感を高められるようにしていきたい。
- 友達の良いところを素直に認めて称える場面や、自己有用感を感じられる場面を通じて、目標をもって頑張ることのできる姿勢を育み、互いに認め合える温かい雰囲気の醸成を学校全体で取り組んでいく。

2 今年度の重点目標

「正しい判断のもと主体的に行動し、互いに認め合える児童の育成」

- ルールやマナーがあるよさを実感し、進んで守ろうとする態度の醸成
- 明るいあいさつや、時と場に応じた正しい言葉遣いを身に付けられるようにする指導の充実
- 自己有用感を育み、互いの良さを認め合う、居がいのある学級づくりの推進
- いじめ等の問題行動や不登校の未然防止・早期発見と発生時の組織的対応
(保護者や関係諸機関との連携、一人一人に寄り添う適切な指導・支援の実施)

3 今年度の取組（「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★、「令和6年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、不登校対策における取組のうち重点は文頭に○）

(1) 規範意識の醸成

□各学級や児童会の取組と教職員の指導による学校のきまり（よい子の1日）の徹底

※取組毎に目的を明確化したり振り返りをしたりする時間や場を設定することで、児童がきまりの意味を理解し、自ら進んで守ろうとする態度を育成する。

・場に応じた言葉遣いやあいさつについて、学校生活の場面での意図的な指導及びSSTなどの実践

(2) 基本的な生活習慣の育成

・月別生活目標の周知及び振り返り

・地域、保護者、地域学校園、異学年と連携したあいさつ運動の実施（6月、10月）

・児童会を中心としたあいさつ運動の推進

・教職員による、休み時間などの巡回指導

・スマートフォンや携帯電話等に係る問題対策の推進（ノースマホ・ノーゲームデーなど）

・ケータイ・スマホ宮っ子ルール共同宣言 Ver.2 を活用した家庭内でのルール作りの推進

※学級懇談会や学年だより等で家庭に呼び掛けを行う。さらに、長期休業前に目標を立てることで、家庭内のルール作りを促し、ゲームや動画視聴の節度ある態度を育成する。

(3) 安心して考えを伝え合い、互いに高め合える集団づくり

□Q-Uの実施及び事例検討会の実施

・縦割り班活動（いきいきタイム、清掃）の充実と工夫

※縦割り班活動後に振り返りの時間を設け、それぞれのよかった点を発表し合う など

・エンカウンターや対人関係ゲームの活用、仲間づくりを目指したクラス遊びの奨励

★□居がいのある温かい学級経営と分かる授業の展開

□自己有用感を高める学級経営の充実

★□道徳科の授業の充実（道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成）

(4) いじめ・不登校対策の充実

○教職員及びSC等による、いじめ防止等対策委員会の設置と運営

□いじめゼロ強調月間に合わせた取組の実施（5月、10月）

□特別な教科 道徳を核として、いじめの認識及び正しい理解に対する指導（通年）

□いじめゼロスローガンの発表（5月）

□いじめゼロ集会の実施（10月）

○学校生活アンケートの実施及び教職員による共通理解（年間4回）

★□○教育相談（5月、10～11月）やスクールポストを活用した児童理解

・各種便りや学校ホームページを活用したいじめ防止等に係る情報の発信

★□○配慮を要する児童に関する情報の共有（打合せ・職員会議などで随時）

※職員会議後の児童の情報交換会や欠席状況共有シート等を活用することにより、不登校傾向のある児童に対して、ケース会議を行い、早期対応かつ全校体制で進める。

★□○不登校児童に対する支援の工夫

（別室登校、1人1台端末の活用、デジタル適応支援教室の活用）

(5) 個に応じた指導の充実

★個人の記録及び欠席状況共有シートの作成と活用（通年）

□配慮を要する児童に関するケース会議の実施（随時）

(6) 自然・文化を愛する心の育成

・家庭での読書活動の推進（通年）

・植物や作物の栽培（通年）

(7) 家庭・地域、関係機関との連携

・各種強調週間における家庭との連携

・教育センターとの連携（通年）

・SCとの連携（通年）

★雀宮地域学校園での連携（随時）

・感謝の会の実施及び内容の充実